

流域治水シンポジウム「アンケート」の集計結果

1 水害を体験したことがありますか

- | | |
|------|-----|
| A)ある | 15人 |
| B)ない | 20人 |

(1で「ある」と答えた方)

2 いつごろ、どこで体験しましたか。

- ・昭和26年9月ごろ、京都府京丹波町の実家で
- ・昭和34年の水害
- ・昭和28年13号台風だったと思う。(当時小5年頃だった)
安曇川大橋附近と周辺(新旭町・安曇川町)
- ・4,5才の頃でしたのでこまかな事がわからないが小学校農協民家等が流れ出ました。流れ出ていく民家を見ました。大津市葛川貫井町(安曇川)
- ・昭和28年(ジェーン台風) 昭和34年
- ・昭和40年頃 草津市旧草津川破堤
- ・昭和28年 信楽町牧 馬場出地先(大戸川)
- ・昭和40年代 他県
- ・昭和40年ころ
- ・長浜市元浜町(旧西松町) ジェーン台風
- ・昭和30年前、たえず洪水を体験 京都市
- ・昭和28年9月頃、大阪府布施市小若江(当時)
- ・(甲賀市甲南町寺庄、野尻地先)一級河川杣川(千歳橋)~(金田橋)
- ・昭和46、47、48?年かさだかではないですが...4~6歳ごろ
多賀町河内安原(芹川上流)
- ・昭和34年 伊勢湾台風で床下浸水

(1で「ある」と答えた方)

3 そのときの様子、行動を教えてください。

- ・地下水の湧水で自宅が床下浸水、被害は軽微
自宅と学校の中の川があふれ、学校から帰れなくなった。(学校で一泊)
土砂はらんで多くの水田が耕作不能になった。
- ・記憶が定かではありませんが、家で飼っていた牛を父親が引き出して高台の所へ連れて行ったこと、水が床上まで浸水したことを思い出されます。自宅のある所が、

地域でも、低い位置のため学生の間においては幾度も水のつかったことがありました。

- ・ スライドであったH21年8月9日とよく似た状態で、夜の集中災害(雨量)
翌朝見た田んぼの稲作の上は泥水ですべて倒れ、その上に上流から流れてきた流木
他多量の物が散らばっていた。当夜家を(戸を開ける)出ると、ゲタ、クツ他の物が
流れ出して行く。住民の代表者が、竹ざをを目やすに、パトロールに来られた。(高
い所(近所)の家の近くに非難した)。
- ・ 宇治川(淀川 = 瀬川)(山科川)
(宇治市で保存されているものが全て)
- ・ 草津中学校体育館に避難した
- ・ 家の敷地(石垣の元)まで
- ・ 草津川堤防から水があふれ出た
- ・ 床下浸水
隣の八百屋のリンゴ・果物がポカポカ浮き、拾い集めて返した覚えあり。もちろん
お駄賃はいただきました。狭い水路(オープンカット)と道路の区別は不可
現在も一部水路は側溝となり放流先の川(音の外濠)は川中が狭くなり許容量の不足
となっている。(20年7月18日状況が示している)
- ・ 小学校の校庭はいちめん水びたしで家の方も、たえず床下浸水をしていた
- ・ 床下一杯までの浸水で下足類を中心に濡らしてしまった。
- ・ 金田橋流失(復旧済)
千歳橋は橋桁まで上昇
寺庄側は床上浸水 野尻側は堤防欠損
- ・ 芹川の水位が上がり、町道にも水が上がり川沿いの宅地も川と同じになっていた。
平屋に住んでいたため、大人にだかれて、倉庫の2階に避難した。
夜であったのであたりは暗かったが、玄関から倉庫までのわずかの距離(10m程)を
逃げる瞬間をしっかりと覚えている。強い恐怖を感じていたのだろうと思う。
- ・ 家の中で牛が浮いていた

- 4 滋賀県では、水害の記録と記憶を後世に「伝え・残す」取り組みを進めています。そのため、水害経験者の方に体験談や水害写真の提供をお願いいたしたく存じます。ご協力いただける方は、後日こちらからご連絡いたしますので、お名前等のご記入を願います。なお、個人情報には当該連絡のみに使用し他の目的には使用いたしません。

(個人情報に関する内容のため、非掲載))

- 5 その他、シンポジウムへのご意見・ご感想を聞かせください。

- ・ 基調講演を除き、時間が少なかったので、きれいごとになり、ポイントが明確にならないというらみがあったが、多面的な話題提供は大変良かった。
- ・ 学識者部会からの提言に同感しています。最近の宅地開発業者の乱開発は目に余るものが有り少しの雨でも水路となる様なタンボの農道の両側を宅地化している例が多々見受けられる。小の様な所に建築許可を当ててしまえば、実態を知らないユーザーが高い買い物させられ、その後始末を行政がやらされるのは、税負担している一般市民はやりきれない。土地利用に関する法制度の活用とより強力な整備が望まれる。市街化地域より取消し(既存)
- ・ 水害の体験はないですが、幼い頃、小学校へ避難したことを憶えています。幸い大事には至らなかったですが、s40年代初めに防災無線はなく、今思えば隣組の組長さんが言い回しに回っておられたんだなあと思います。
水害から命を守る地域づくりのため、まずは地域の人と人との結びつきを強くしていくことが大事だと思います。
- ・ 公共機関のポスターで見て、参加させてもらった。出席させてもらって、大変よかった。災害はいつ発生するか、わからないから、先人の知恵、子供の頃からその事を知らしめる大切さ。
- ・ 宇治市から来ました。滋賀県(琵琶湖)の水で関西全体がうるおっており“水”問題治水について具体的最も進んでおり、貴重な機会でした。嘉田知事まで参加され意義あり貴重な機会でした。
- ・ 佐用町長の話が参考になりました
- ・ いい話を聞かせていただきました。ありがとうございます。
地域でもシンポジウムをやりたいです。
- ・ 年末、年一回だけでなく、防災シリーズとして年四回程度開催し、

地震・水害・防犯・要援護などを総合的に理解できるようにしてほしい。

- ・ 県の真剣な取組みがよく分かり、大変参考になった。
- ・ 生活防災の考え方が学べました。
- ・ 佐用町長さんの話は、とても参考になりました。
- ・ 基調講演にあったように、日常生活に災害対策を“溶けこませ”「文化」として、地域に根づかせ、継承させていくことは、非常に重要であると感じた。また、そのことを考えていくにあたり、基調講演の内容は一助となると感じた。
- ・ ing 未完成でありつづけることの方が意識はつづく
- ・ 佐用町長の公としての反省点や伝達のむつかしさが伝わった。
- ・ 休憩が1回しかなかったのがしんどかった。“流域治水”のことを、県民全員が知っているようになればいいなと思っています。そのために、県民向けのもっとわかりやすい説明があればいいなと思いました。
- ・ 庵造さんのお話、まだまだ生々しいお話で、今後の被害を受け止めた対応策について聞け、大変よかった。
また矢守さんのお話も、新たな視点・示唆に富んでいて充実していました。
ありがとうございました。
- ・ 県のこれからの治水のあり方がわかり参加してよかったです。
そして、自助の面で、他人ごとでなくこれから地域のことを考え、行動したいと思いました。
- ・ 流域治水の具体的考えをもっと前面に出していただければより良かったと存じます。
また、流域治水の課題についてより踏み込んだ議論も含めていただけるとなお良かったと存じます。
- ・ 最大の視点が欠落していたと思う。水災などの最大の被害者は流域住民であるが、川づくり流域づくりに地域住民がもっと関りを持てるよう、自治体行政の政策に対する判断を住民協議会のような場所で議論して貰うことが重要であろう。その為の「住民参画」制度を取入れることが今後必要と考える。